

札幌

忠辰科大落

八田三郎様  
台展





大坂市西區南堀江通壹丁目  
勝本忠兵衛

此の如く冷き相俣し流る  
成り相俣し流る余り安んず  
以てありて上、草方一説も  
此の如く流る余り安んずの  
如く相俣し流る余り安んず  
と流る余り安んずの  
必愉快ありし少しも安んず  
こゝに慶められ愉快の如く  
由りて流る余り安んず  
慶る余り安んずの如く  
余り安んずの如く  
の如く安んずの如く  
愉快の如く  
先づ余り安んずの如く  
余り安んずの如く

情好とのるる

先的の形もさあらり

つと申居るもつとのも

かしらつこりもさあらり

申し具儀、お世度

片イヤハヤ申すは筋

と成り嬉しから

かしらつこりもさあらり

たしと

此夕申すは合意、合意

お之集名物、お之

而合儀、合意、君一

お話、お者、あり、今祝

お之集名物、お之

お之集名物、お之

お之集名物、お之

お之集名物、お之

お之集名物、お之

此の書、小石の  
こゝ官邸、あり二時、  
護河、林文、老兄、  
八田、野、晴、幸、  
大の、同、場、と、  
れ、と、あ、く、  
こゝも、強、と、  
る、少、生、を、  
朝、中、心、と、  
社、の、事、を、  
父、を、の、  
と、あ、お、  
り、た、う、  
こ、は、  
あ、い、  
の、一、  
あ、の、

文を以て飛ぶものなり  
と爲すは想像なり  
りたりは際馬鹿なり  
て居る方が得策なり  
此の先考は此の爲文  
の節、此文は勝本は林  
森の意を以て居ると  
申すは一則の如し  
不承の如くは  
御座り申す  
御座り

少田忠信  
の